

唇裂児を持つ母親の養育態度

奥山和男、須永 進(昭和大学医学部小児科)

はじめに

顔面中央に醜形を伴う唇裂は、生命の危険をほとんど伴わない奇形である。しかし、外表面より目のつきやすい異常のため、家族、特に両親に子供に対する責任感や罪悪感などを心にいだかせ、親の養育態度に大きな影響を及ぼす可能性があると考えられる。

本調査は唇裂児の母親の養育態度を分析し、唇裂児とその母親の関係の一端を明らかにし、若干の考察を加えて報告する。

調査方法

1. 調査対象

昭和60年7月より6ヶ月間に昭和大学病院・口蓋裂診療班・小児科外来を受診した3-6歳の唇裂児を持つ母親(育児年数3-6年)104名を対象とした。調査の主旨と調査用紙の記入方法は外来で説明を行い、家で記入後、返送を受けた。

2. 調査方法

親子関係診断テストは親子関係を量的評価できる田研式「親子関係診断」¹を用いて行った。調査は原則として両親ともに行ったが、今回は、学童以前の患児に深く関係がある母親の調査結果のみを集計した。

まず、母親の養育態度は保護-拒否と支配-服従という2つの軸を考え、これらの組み合わせによって図1に示すような型に分類した。

テストによる養育態度型の量的評価は、まず各質問をあらかじめ決められた方法で採点し各型ごとに得点を集計した後パーセントाइルに換算した。各型のパーセントाइル値で最も低い型をその母親の養育態度型とした。

表1には各養育態度型の養育態度内容を示した。今回の調査における唇裂児の母親の養育態

度の集計では、拒否型(消極的と積極的)、服従型(盲従的)、および支配型(厳格的)などを示す母親がほとんどなかったため、態度型の検討は支配型(期待的)、保護型(干渉的=かまいすぎ)、保護型(不安的)および服従型(溺愛的=あまやか)の4型について行った。

次に、養育態度に影響を及ぼす環境の違いによる母親の養育態度型の違いについて検討を行った。影響を及ぼす環境は育児年数、父母間の年齢差、および同居家族の有無や患児の同胞の有無などを選んだ。

*参考に、今回の調査における両親の学歴別構成を表2に示した。

結果

1) 裂児母親の養育態度について(図 2. A)

不安的保護型を示すものが47.6%と最も多く次に干渉的保護型(かまいすぎ)の19.4%,溺愛的服従型(あまやか)18.4%,期待的支配型14.6%の順であった。

2) 患児の育児年数からみた母親の養育態度について(図 2. A)

育児年数を3-4年と5-6年とにわけ養育態度を比べてみると、患児の育児年数の長い母親では、期待的支配型と溺愛的服従型は短いものに比べそれぞれ1/2以下であった。逆に、不安的服従型を示す母親は育児年数の長いものに多くみられた。

3) 父母間の年齢差からみた母親の養育態度について(図 2. B)

0-2歳と5歳以上の差での養育態度の比較では、父母間の年齢差が開くほど溺愛的服従型を示す者が多く、一方、不安的保護型は逆に少なくなった。

4) 患児の同胞を除く同居家族の有無からみた

母親の養育態度について(図 3.A)

同居家族“あり”の母親の示す養育態度は“なし”に比べ期待的支配型と溺愛的服従型が多く、逆に不安的保護型が少なかった。

5) 患児の同胞の有無からみた母親の養育態度について(図 3.B)

同胞“あり”の母親では“なし”に比べ期待的支配型と溺愛的服従型を示すものが多く、同胞“なし”では不安的保護を示すものが多くみられた。

考察

親の養育態度と子供の性格について検討した報告は数多くある²⁻⁵⁾。今までの報告によると、親の特定の養育態度は、因果関係について明確なものではないが、子供の性格形成に深い係わり合いがあるとされている。事実、子供の性格形成は、親の日常生活における養育のしかたや態度により大きな影響を受け、好ましくない親の態度や家庭内不和は子供の性格形成に少なからず悪影響を与えると考える。外表面より目のつき易い異常(本調査では唇裂)が子供の性格形成に及ぼす影響のプロセスを表3に示した。本調査の目的は唇裂児の母親の養育態度を分析し、唇裂児とその母親の関係の一端を明らかにすることにある。

今回の調査によると、唇裂児の母親の多くは、子供の日常生活、健康、交友関係や将来の進路などに心配や不安をいだきながら、細々と子供の世話をやき、なおかつ甘やかす養育態度を示す一方、子供を親の要求する方向へ従わせようとする傾向を認めた。この様な結果は、母親の育児に対する強い動揺のためと考えられる。

母親の養育態度に影響を与える要因についての本調査成績では、子供が発育するにしたがい親の養育態度に変化がみられた。母親に子離れがみられる半面、患児の交友関係や将来の進路などに心配や不安が増え、また子供を親の要求する方向へ従わせようとする態度がみられた。

父母間の年齢差や同居家族の有無は家族内の

人間関係に影響する要因と考える。家族内の人間関係の安定は子供にとって望ましい養育態度として反映し、子供への性格形成に良い影響を与えると考える。本調査によると、父母間の年齢差は開くほど母親の子供に対する甘やかしが強くみられ、子供を手離したがない傾向がみられた。一方、年齢差のほとんどない母親では、甘やかしより、圧倒的に子供に対し心配や不安をいだき、過保護を示す態度がみられた。同居家族の有無からみた母親の養育態度では、同居家族のある者の家庭内の人間関係の複雑な面の反映がみられ、同居家族のない家族より子供に対する甘やかしを示す母親が多くみられたが、同居家族のない家族では、子供に対する過保護傾向がみられた。

以上、唇裂児の母親は育児全般に対して強い不安やあせりを来していると考えられた。

まとめ

唇裂児の母親は子供の養育に強い不安やあせりを示し、しいてはそれが子供への性格形成に悪影響を与える可能性があることを示唆した。唇裂・口蓋裂医療に関係している医療従事者は、母親のこの様な心理状態を十分に理解し、診断に取り組む必要があると考える。

文献

- 1) 品川不二郎、他: 田研式診断的新親子関係検査。田研出版 1973。
- 2) Symond, P. M.: The psychology of parent-child relationships Appleton-Century. 1939.
- 3) 大西誠一郎編著、親子関係の心理。金子書房。1971。
- 4) 詫摩武俊、依田 明編著、家族心理学。川島書房。1972。
- 5) 滝沢清人、相場 均、南 博編著、現代人の病理学; 家族の臨床社会心理学。1974。

図1 親の養育態度

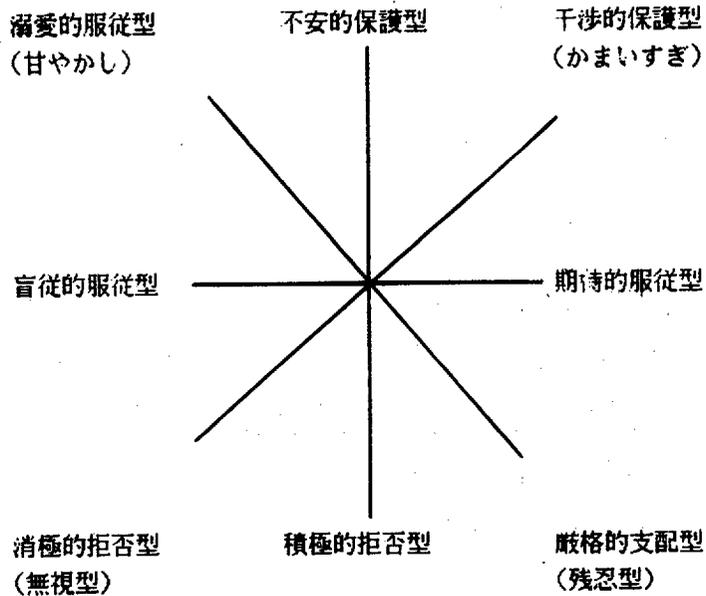


表1 親の養育態度型とその内容

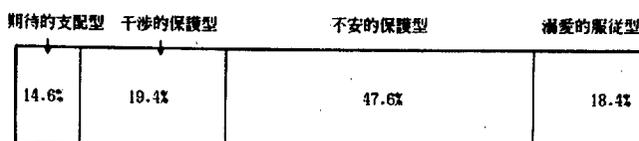
消極的拒否型	-- 無視、放任、無関心、不信用、悪感情、不一致感
積極的拒否型	-- 体罰と虐待、威嚇、屈辱、過酷な要求、保護責任の放棄
厳格的支配型	-- 命令、禁止、強制、批難、独裁
期待的支配型	-- 野心投影、強要、依存
干渉的保護型	-- かまいすぎ、世話やき、先回り
不安的保護型	-- 心配、取越苦労
溺愛的服従型	-- 盲愛、甘やかし、献身、子供本位
盲従的服従型	-- 献身、子供本位

表2 両親の学層別構成（人数）

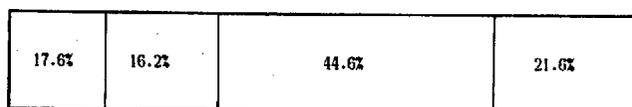
	大学 (短大を含む)	高校	中学	回答なし
母親	11	55	7	31
父親	25	38	12	29

図2 (A) 育児年数別から見た母親の養育態度

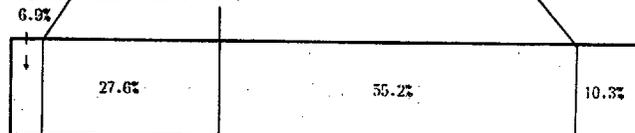
全体 育児年数（育児年齢）3 - 6年



育児年数（育児年齢）3 - 4年

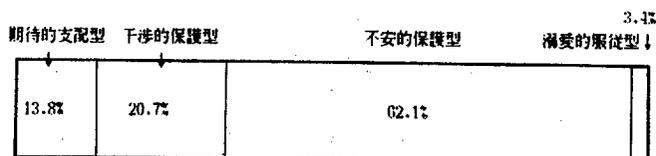


育児年数（育児年齢）5 - 6年



(B) 父母間の年齢差から見た母親の養育態度

0 - 2歳の差



5歳以上の差

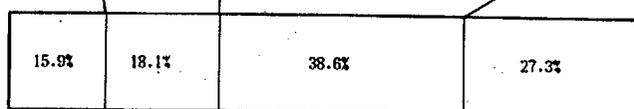


図 3 (A) 同居家族の有無から見た母親の養育態度 (患児の同胞を除く)

同居家族 有り

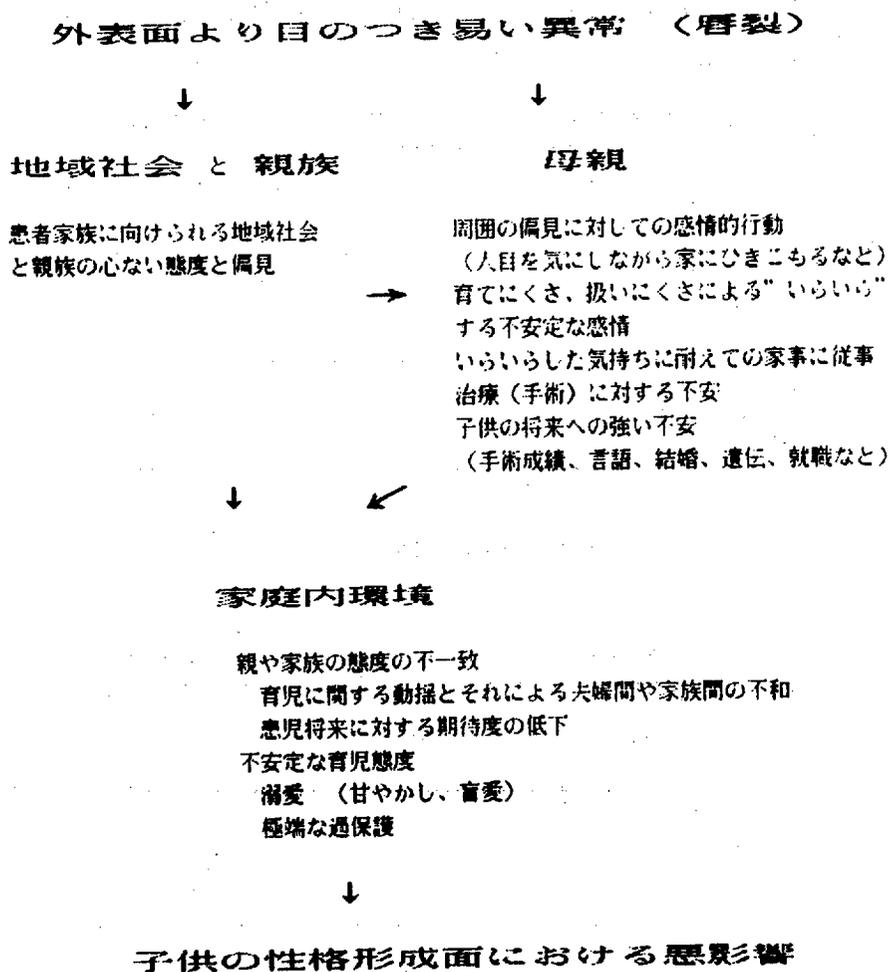
	期待的支配型	干渉的保護型	不安的保護型	溺愛的服従型
同居家族 有り	18.5%	18.5%	37.0%	22.1%
同居家族 なし	13.0%	19.5%	50.6%	16.9%

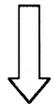
(B) 患児の同胞の有無から見た母親の養育態度

同胞 有り

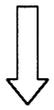
	期待的支配型	干渉的保護型	不安的保護型	溺愛的服従型
同胞 有り	16.6%	18.2%	42.4%	22.7%
同胞 なし	10.8%	21.6%	56.8%	10.8%

表3 親の養育態度が唇裂・口蓋裂児の性格に及ぼす影響





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

顔面中央に醜形を伴う唇裂は、生命の危険をほとんど伴わない奇形である。しかし、外表面より目のつきやすい異常のため、家族、特に両親に子供に対する責任感や罪悪感などを心にいだかせ、親の養育態度に大きな影響を及ぼす可能性があると考えられる。

本調査は唇裂児の母親の養育態度を分析し、唇裂児とその母親の関係の一端を明らかにし、若干の考察を加えて報告する。